



最近の中国就職事情

たかおく くにえ
高奥 邦英

●在中国日本大使館・經濟部・一等書記官

北京市人力資源社会保障局は5月3日、北京市の戸籍を持たない大学生が卒業後に北京市内の別の大学に進学する場合の年齢上限を引き下げると発表した。大卒資格者が新たに北京市内の大学や大学院で学ぶ場合、従来は35歳が上限だったが、今年から大学本科は24歳、大学院修士課程は27歳、大学院博士課程は35歳にそれぞれ上限を設ける。

最高学府や高等研究機関が集中する北京市は、都市部の中でも大学入試の競争率が最も高い。今年7月に同市内の大学を卒業する学生数は約22万9,000人で、このうち地方出身者は約14万5,000人。これら地方出身者の卒業生の多くが北京市にとどまり、大学院進学や就職を希望している。だが、各種制約から、本科卒業後引き続き同市で学べる地方出身者は1万人程度なのが現状である。

このため、今回の措置に対して、地方出身の若者が北京市でレベルの高い学問に従事する機会を更に狭めているとして非難する有識者もいるが、当局は「より優秀な人材に北京市で長く働いて貰うための措置。例えば、大学院で学んだ人が40歳で就職した場合、定年退職まで15年しかない。これに対し、27歳で修士号を取得し就職すれば28年間働くことができ、より北京市の経済活動に貢献できる」と述べ、「一種の就職差別ではないか」

との疑問の声に対しては、「多くの人が北京市で長期生活を望んでいるが、市の資源には限りがある。若年層の雇用を優先する意味もあり、差別ではない」と説明している。

北京市は若者が首都に集中するのを防ぐため、大学入試における北京市戸籍を持たない学生の合格ラインを北京市戸籍者より高く設定するなど、教育機会に差をつけている。

このような中国独特の戸籍管理制度をかいくぐり、インターネット上で北京市の戸籍が非合法に販売されているとの報道もある。価格は約30～50万元（約480万円～800万円：1元＝16円）で、就職先とセットで販売されているものや、販売対象者を新卒者や帰国留学生、大学入試を控えた子供の親としているものもあると言う。

このような状況の中、本年度6月7、8日に、約912万人の受験生が、全国統一大学入学試験に挑んだ。他方、試験放棄者が毎年10万人を超える速さで増加しており、今年は100万人にも上っている。大学の高額な学費と「大学を卒業しても仕事が見つからない」と言う厳しい就職状況が、農村出身者の大学受験にマイナスの影響を与えているようだ。ここ数年、北京大学や精華大学などの有名大学を受験する農村出身の学生がますます減

少しているのはその一例である。

大学卒業生にも試練が待ち構えている。2013年の大卒者は過去最大の約700万人であるだけに、就職が最も厳しい年だと言われている。実際、今年の北京市の卒業生は約22万人と言われているが、4月下旬の時点で、卒業生全体の就職内定率は28.24%と過去最も低い数字となっている。主な原因は高等教育を受けた人材の需給が極めてアンバランスなことである。このような状況の中、国務院は各地方政府に対し、大学卒業生に関する就職促進策を実施し、今年の就職難を解決するよう求めている。近年、右肩上がりでの経済成長を伸ばしつづけていた中国だが、最近生産や投資の伸びが鈍化し倒産する企業も多くなっている。このような景気動向を反映した、大学生の安定志向の高まりも最近の特徴である。

昨年11月、国家公務員試験が行われたが、受験者は約110万人と、2004年の11万人の10倍に達し、倍率55倍の狭き門となった。このように、近年国家公務員が就職先として人気がある理由は、営利

企業ではないため、倒産することがなく、安定的な賃金が約束されていると言う事もあるのだが、実は、法令に反する収入(灰色収入)が魅力になっているとの指摘もある。報道によると、今や解体された鉄道部のある部長は25年間にわたり約6,460万元(約10億3千万円!)を不正に受けとったと言われている。

今年3月の全国人民代表大会における、中国最高人民検察院の報告によると、過去5年間に賄賂や横領などで立件された公務員が21万8,639人に上ったとのことである。このような風潮に対して、新たに発足した習近平体制は強い危機感を有しており、「中国共産党規約」の改定にあたり、腐敗防止に関する文言(純潔性、品性等)や「反腐敗清廉政治建設提唱」を盛りこんでいる。「中国は賄賂文化」と一部諸外国から揶揄される程に蔓延している風潮・習慣を打破するために、本課題にどのような取り組みが進められるのか今後の趨勢が注目される。

豆知識

【蟻族】

「中国青年発展報告2013」によると、概算して北京には約16万人の「蟻族」(大学卒業後も満足な職につけずに集団で住む若者)が大学周辺や流動人口が集中して居住するエリアで暮らしており、平均賃金は4,133元(約66,000円)(注:2011年度の北京市平均は、4,672元(約75,000円))、住居の平均面積は6.4平方メートル、平均家賃は518元(約8,300円)となっている。

【農民工】

「2012年農民工動態調査報告」によると、農民工(出稼ぎ労働者)総数は依然高い割合で増加し約2億6千万人に達している。年齢については、若い層の割合が年々低くなっており(40歳以下が全体に占める割合:2008年70.0%→2012年59.3%)、平均年齢もこの4年間で3歳上昇している(34歳→37歳)。また、学歴については、小卒レベルは14.3%、中卒レベルは60.5%、高卒レベルは13.3%、職業訓練校卒レベルは10.4%となっている。